

九州生乳販売連合会報



No. **88**
November 2024

TOPICS

酪農情勢報告…………… 1
 令和7年度季節別乳価について…………… 2
 人事異動…………… 2
 令和6年度販売状況について…………… 2
 令和6年度会員別生乳受託販売数量…………… 3
 指定団体の重要性および取引契約の遵守について…………… 4
 生乳の安全・安心の確保のための取組強化について…………… 6
 令和6年度生乳品質共励会の途中経過について…………… 8
 令和6年度月別受託生乳検査成績…………… 8
 酪農理解醸成・消費拡大対策事業について…………… 9
 新聞広告を掲載しました…………… 12
 酪農教育ファーム活動について…………… 15

酪農情勢報告

1. 九州の生乳出荷戸数

令和6年9月の生乳出荷戸数は1,004戸で、令和6年3月時点の1,045戸と比較すると41戸の減少となりました。

2. 九州の乳用種雌牛飼養頭数と出生頭数

7～9月の乳用種雌牛飼養頭数は、24ヶ月令以上の頭数は前年を若干下回った水準での推移となっていますが、23ヶ月令以下の頭数は1割以上減と減少幅が大きく、総頭数も前年を4%程度下回って推移しています(表1)。

表1 乳用種雌牛飼養頭数 (単位:頭)

	7月	8月	9月
23カ月令以下	24,475	24,050	23,792
	増減 前年比	-3,486 87.5%	-3,418 87.6%
24カ月令以上	70,896	70,845	70,757
	増減 前年比	17 100.0%	-287 99.6%
総頭数	95,371	94,895	94,549
	増減 前年比	-3,469 96.5%	-3,705 96.2%

注: Jミルクホームページより

また、6～8月の出生総頭数は各月とも前年を下回り、その内訳として、乳用種雌、乳用種雄は前年を下回り、交雑種はほぼ前年並みとなりました(表2)。

表2 出生頭数 (単位:頭)

	6月	7月	8月	累計(6-8月)
総頭数	2,537	3,618	4,260	10,415
増減 前年比	-71 97.3%	-80 97.8%	237 94.7%	-388 96.4%
うち、乳用種雌	559	834	1,068	2,461
増減 前年比	-40 93.3%	-89 90.4%	-26 97.6%	-155 94.1%
うち、乳用種雄	178	321	416	915
増減 前年比	-29 86.0%	-90 78.1%	41 110.9%	-78 92.1%
うち、交雑種	1,093	1,675	1,932	4,700
増減 前年比	35 103.3%	65 104.0%	-141 93.2%	-41 99.1%

注: Jミルクホームページより

3. 生乳需給

(1) 生乳受託販売数量

7～9月の生乳受託販売数量は、今夏の非常に厳しく長く続いた猛暑の影響を受けて落ち込みが大きく、特に8・9月は前年を4%程度下回りました。同様に、都府県も猛暑の影響を受けて前年を下回った一方、北海道は昨年猛暑の影響を受けて大きく落ち込んだ反動で今年は前年を上回りました。(表3)。

表3 生乳受託乳量 (単位: t, %)

	7月	8月	9月	累計(7-9月)
九州	42,802	40,581	39,939	123,322
前年比	98.9%	96.2%	95.8%	97.0%
都府県	231,281	220,823	217,117	669,221
前年比	96.8%	96.8%	97.3%	97.0%
北海道	329,427	327,845	318,433	975,705
前年比	97.8%	101.9%	102.4%	100.6%
全国	560,708	548,667	535,551	1,644,926
前年比	97.4%	99.8%	100.3%	99.1%

注: 中央酪農会議 用途別販売実績(速報)より

注: 公共除く。ただし、都府県の内訳として中国のみ公共含む。

(2) 生乳販売状況

昨年の乳価改定に伴う牛乳・乳製品の値上げによる需要減少は完全には止まっておらず、飲用向けおよびクリーム等向けでその影響が続き、前年を下回りました。

一方で、各社ともはっ酵乳等の販売を強化する傾向があり、はっ酵乳等向けは前年を上回りました。また、脱脂粉乳・バター等向けについては、7月は昨年が極度に逼迫し脱脂粉乳・バター等向けが大きく減少していた反動により前年を上回り、9月は台風10号の影響で一部の生乳が加工処理に仕向けられ、前年を上回りました。一方、8月は需給の逼迫を受けて前年を下回り、7～9月累計では前年を下回りました。

全国の生乳販売状況は、九州同様に値上げの影響を受けて飲用向けが前年を下回った一方、脱脂粉乳・バター等向けは前年を上回っています（表4）。

表4 用途別販売数量 (単位:t, %)

	用途	7月	8月	9月	累計(7-9月)
九州	飲用 (前年比)	30,644 97.0%	28,138 93.8%	30,048 95.0%	88,830 95.3%
	はっ酵乳 (前年比)	7,892 107.8%	7,944 106.5%	7,248 99.9%	23,084 104.8%
	脱脂粉乳・バター等 (前年比)	2,093 103.2%	2,342 90.7%	717 106.6%	5,151 97.5%
	生クリーム (前年比)	2,078 92.5%	2,063 99.1%	1,831 89.7%	5,973 93.8%
	チーズ (前年比)	95 101.6%	94 99.3%	95 105.9%	284 102.2%
	飲用 (前年比)	246,198 94.8%	238,852 98.2%	256,562 96.8%	741,612 96.6%
	はっ酵乳 (前年比)	37,888 100.9%	37,849 100.8%	34,367 97.3%	110,104 99.7%
全国	脱脂粉乳・バター等 (前年比)	130,432 98.1%	129,923 101.9%	109,784 120.5%	370,140 105.3%
	生クリーム (前年比)	111,768 103.1%	107,080 100.4%	106,632 96.6%	325,479 100.0%
	チーズ (前年比)	34,422 92.5%	34,964 100.7%	28,205 87.4%	97,591 93.7%

注：中央酪農会議 用途別販売実績（速報）より

4. 今後の生乳需給について

今夏の長く厳しい猛暑の影響で生乳生産が大きく落ち込み、生乳需給は長期間逼迫しました。10月に入り暑さが弱まって生乳生産はようやく回復傾向に入り、生乳需給の逼迫も少しずつ解消されつつあります。

今夏の生乳需給逼迫のもう一つの要因として、域外の乳業メーカーが販売する低価格帯の製品の販売が夏前から制限され、玉突き的に九州内のメーカーに需要が流れた結果、需給逼迫に拍車がかかったということがありました。この域外の乳業メーカーは系統外事業者の生乳を扱っており、「年間を通じて定量で生乳を調達しているため、夏場の需要増に応じて供給量を増加できない」というのが制限の原因です。

現在、国の呼び掛けで系統内・系統外事業者による意見交換会が定期的開催され、そこでも需給調整の重要性が議論されています。特定の地域・事業者が生乳需給の負担が偏らない環境が維持されるよう、本会としても積極的に意見していきます。

令和7年度季節別乳価調整率について

季節別乳価実施要領に基づく令和7年度の季節別乳価調整率については、令和6年11月6日開催の第2回生乳受託販売委員会での協議後、同日開催の第10回理事会にて、令和6年度と同様の調整率にて実施することが決定されました。

令和7年度季節別乳価調整率 (%)

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
94	94	100	110	110	114	105	100	93	93	93	93

季節別乳価は、生産者が需要を意識して生乳生産に取り組むことで、夏場に需要が多い飲用向けへの供給量を増やし、乳価を維持・向上させ、生産者手取り乳価の増加に繋げることを目的としています。

生産者の皆様におかれましては、引き続き、需要期生産に向けた取り組みにご協力いただきますようお願いいたします。

人事異動

氏名	配属	備考	発令日
元田 浩明	検査部	新規採用	令和6年10月1日

令和6年度 販売状況について

用途別生乳販売実績

(単位 数量：t、前年比：%、単価：円/kg)

用途	7月			8月			9月			第2四半期計			年度累計			
	数量	前年比	単価	数量	前年比	単価	数量	前年比	単価	数量	前年比	単価	数量	前年比	単価	
飲用等向け	域内飲用向け	24,358	93.2	134.368	25,444	97.5	133.520	23,492	96.4	134.988	73,294	95.7	134.301	142,254	95.9	134.552
	学校給食向け	2,769	106.9		328	56.4		4,015	94.4		7,113	95.8		18,454	96.6	
	域外飲用向け	3,739	120.1		2,555	73.0		2,752	84.6		9,045	91.7		28,981	98.5	
	飲用牛乳等向け計	30,866	97.0		28,327	93.8		30,259	94.9		89,452	95.3		189,690	96.3	
	はっ酵乳等向け	7,892	107.8		7,944	106.5		7,248	99.9		23,084	104.8		44,992	103.3	
	飲用等向け合計	38,758	99.0		36,271	96.4		37,506	95.9		112,536	97.1		234,682	97.6	
特定乳製品向け	脱脂粉乳・バター等向け	2,132	102.8	95.201	2,392	90.4	94.690	743	106.6	98.997	5,267	97.2	95.881	21,659	117.2	95.588
	クリーム等向け	2,106	92.6		2,084	99.2		1,855	89.6		6,045	93.8		12,851	91.9	
	チーズ向け	95	101.6		94	99.3		95	105.9		284	102.2		556	98.4	
	特定乳製品向け計	4,333	97.6		4,571	94.4		2,693	94.2		11,597	95.5		35,066	106.2	
販売乳量合計	43,090	98.9	130.429	40,842	96.1	129.174	40,200	95.7	132.577	124,132	96.9	130.712	269,748	98.6	129.487	

支払乳代

(単位 数量：t、前年比：%、単価：円/kg)

項目	7月		8月		9月		第2四半期計		年度累計	
	金額	単価	金額	単価	金額	単価	金額	単価	金額	単価
基本乳代 ①	5,620,266	130.429	5,275,739	129.174	5,329,549	132.577	16,225,554	130.712	34,928,766	129.487
脂肪分加算金	30,521	0.708	23,513	0.576	26,854	0.668	80,889	0.652	206,340	0.765
無脂固形分加算金	32,954	0.765	27,967	0.685	31,862	0.793	92,783	0.747	240,509	0.892
成分加算金計 ②	63,476	1.473	51,480	1.260	58,716	1.461	173,672	1.399	446,849	1.657
季節別調整率 ③	110%	-	110%	-	114%	-	-	-	-	-
季節別調整金	562,026	13.043	527,574	12.917	746,137	18.561	1,835,737	14.789	1,077,077	3.993
調整後乳代 ④=①×③	6,182,292	143.472	5,803,313	142.092	6,075,686	151.138	18,061,291	145.501	36,005,843	133.480
販売手数料	17,051	0.396	15,982	0.391	16,165	0.402	49,198	0.396	106,127	0.393
生乳検査料	5,171	0.120	4,901	0.120	4,824	0.120	14,896	0.120	32,370	0.120
送乳経費	178,155	4.134	157,391	3.854	159,486	3.967	495,033	3.988	1,128,164	4.182
需要者負担額(運賃補填)	-2,583	-0.060	-1,337	-0.033	-1,896	-0.047	-5,816	-0.047	-13,006	-0.048
CS・冷却費	45,898	1.065	40,342	0.988	40,015	0.995	126,255	1.017	281,616	1.044
集乳経費	116,820	2.711	110,274	2.700	108,582	2.701	335,676	2.704	728,367	2.700
プール費用 ⑤	360,512	8.366	327,552	8.020	327,177	8.139	1,015,241	8.179	2,263,638	8.392
差引乳価 ②+④-⑤	5,885,256	136.579	5,527,241	135.332	5,807,225	144.460	17,219,722	138.721	34,189,054	126.745

令和6年度 会員別生乳受託販売数量

(単位：t、%)

	ふくおか県酪協		佐賀県農協		長崎県酪連		熊本県酪連		大分県酪協		宮崎県経済連		鹿児島県酪協		合計	
	実績	前年比	実績	前年比	実績	前年比	実績	前年比	実績	前年比	実績	前年比	実績	前年比	実績	前年比
4-6計	15,483	99.0	3,114	98.7	8,329	101.3	66,420	101.3	17,233	98.8	18,420	103.4	16,616	94.1	145,615	100.1
7月	4,619	97.4	907	100.4	2,419	100.7	19,886	100.0	5,090	96.5	5,390	100.5	4,779	95.3	43,090	98.9
8月	4,367	94.8	826	96.2	2,195	93.2	18,824	97.0	4,911	94.8	5,210	100.1	4,509	92.5	40,842	96.1
9月	4,335	95.4	797	92.1	2,157	92.8	18,646	96.7	4,696	92.3	5,092	99.6	4,475	93.9	40,200	95.7
上期合計	28,805	97.5	5,645	97.6	15,101	98.6	123,776	99.7	31,930	96.8	34,111	101.9	30,379	94.0	269,748	98.6

酪農家の皆様に知っていただきたい

指定団体を通して

生乳を出荷する **メリット** ってなに？

Merit

1

補給金がもらえる

指定団体は、加工原料乳生産者補給金と集送乳調整金の交付を受けることができる指定事業者です。



Merit

2

条件不利地でも集乳してもらえる

条件不利地にある牧場であっても、域内であれば集乳します。効率的な集送乳ラインとなるよう工夫し、集送乳経費やローリーの手配などを合理化することで、経費の削減に取り組んでいます。



Merit

3

価格交渉力が強い

乳業メーカーとの乳価交渉において、取り扱う生乳のシェアが多く、価格交渉力が強いです。また、指定団体が長年培ってきたデータや経験、乳業からの信頼などは指定団体の強みです。



Merit

4

販売調整力が強い

複数の販売先と契約しているため、販売調整力が強く、有利かつ安定的に生乳を売り切ることができます。さらに、全国の指定団体・全国連で協力できるため、災害や需要の増減等に柔軟に対応しています。



Merit

5

安全安心を担保

チェックシートを配布し、記帳記録を推進するなど、生産者の皆さんが安全安心な生乳を出荷できる仕組みづくりを行っています。また、各種検査を行い、指定団体が乳業者に生乳の安全安心を担保しています。



指定団体をご活用ください

個々では成しえないことも、皆で団結して課題を解決することで、より有利で安定的な酪農経営を実現することができます。

そのお手伝いをするのが、指定団体です。



生乳取引契約を 守りましょう

Q なぜ契約が必要なの？



A 契約は商取引の基本

生乳の販売先（事業者）との契約は、両者の合意に基づき成立するものであり、締結後は、契約当事者双方に守る義務が生じます。

A 生乳の安定供給のため

生乳は毎日生産されるものであり、安定的に牛乳・乳製品を消費者に供給するためには、年間を通じた契約に基づいて取引することが重要です。

Q 契約を破るとどうなるの？



A 自身や多くの関係者・消費者に不利益が波及

指定団体は、酪農家の皆様との契約をもとに乳業と契約を結んでいるため、当初の数量を出荷できなくなり、乳業者に不利益を与えてしまったり、消費者に安定的に牛乳・乳製品を届けることが難しくなってしまいます。

また、一般的に、契約を履行しなかった場合、損害賠償請求や契約の解除などを求められるケースもあります。

毎年生乳販売契約（覚書）の更新と共に、酪農家の皆様にご提出いただいている「生乳委託計画」も契約の一部です。委託数量を一方的に変動させることも契約違反となる可能性がありますので、ご注意ください。



一般社団法人 **中央酪農会議**
Japan Dairy Council

九州生乳販売農業協同組合連合会

生乳の安全・安心の確保のための 取組強化について

令和6年度は、令和5年11月に発生した乳製品回収事案の原因が酪農家による動物用医薬品の不適正使用があったと推測されていることを受け、チェックシートの重点記帳項目の未記入・一部記入の酪農家を対象とした記帳方式の変更や集荷規制の導入など取組みが強化されました。



生乳生産者の皆様方には、法律（食品安全基本法）に基づく食品関連事業者として、安全・安心な生乳を出荷する責務があります。生乳に危害が発生しないための確実な生産作業とその記帳・記録を実施いただくとともに、万一実施されなかった場合の措置等についてご理解を賜りますようお願いいたします。

動物用医薬品を使う際は

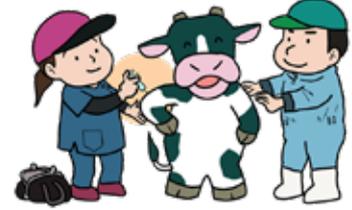
- ① 獣医師の指示に従って適正に使用する。
- ② 休薬期間を守る。
- ③ 確認検査を受けた上で、生乳出荷を再開する。
- ④ 使用記録を残す。

動物用医薬品とは？

動物の病気の予防・治療・診断等に使用される医薬品。

- 予防：ワクチン、ノミ・マダニ駆除剤等
- 治療：抗菌性物質、抗炎症薬等
- 診断：感染症の検査キット、血液成分の検査キット等
- その他：麻酔薬、ビタミン剤等

自分を守るためにも、 必ず記録を残しましょう！



記録の残し方

- ① 獣医師が、または獣医師からの指示に基づき自分が動物用医薬品を使ったら、その都度必ず、生乳生産管理チェックシート等に、動物用医薬品の投与記録（「出荷できない期間と出荷日」「確認検査の実施」の記録も!）を記帳し、保管する。

■ 記録が必要な項目

【初回治療月日】 【治療牛コード】 【マーキング等の実施】 【最終治療月日】

【出荷できない期間】 【残留確認検査月日等】 【出荷日】

【診療記録・指示書の有無（指示書番号）】

※ 【病名】 ※ 【使用薬剤名】 ※ 【治療方法】 ※ 【治療分房】

※については、獣医師からの診療記録・指示書等に記載があれば省略可。

- ② 獣医師からの診療記録・指示書等は併せて保管する。

まとめ書きは絶対ダメ！
その都度必ず記帳！

記帳に不備があった場合の措置

(1) 未記入・一部記入の酪農家を対象とした記帳様式の変更

令和7年2月の記帳状況等調査の最終確認結果において、重点記帳項目のうち1項目でも「未記入（まったく記帳がない）」または「一部記入（記帳されていない項目等がある）」であり、「良好」に改善しなかった酪農家については、令和7年度より、現行の記帳様式から、「動物用医薬品投与・出荷再開記録」等の記載欄も含む出荷伝票に変更する。

(2) 未記入・一部記入の酪農家を対象とした集荷規制の導入

(1)において、記帳様式が変更となった酪農家については、出荷伝票を農協等において集約し、日々の記帳状況を確認する。令和7年度下期（10月～）においては、集荷規制の仕組みを導入し、記帳が行われなかった日については、集乳を行わない。

令和6年度生乳品質共励会の途中経過について

令和6年度の生乳品質共励会の上半期終了時点での対象戸数は996戸（昨年1,063戸）となっています。

今年度は、平均気温が史上最高を記録した夏の暑さの影響を受け、9月までの九州全体の平均点は401点（昨年度419点）となり、昨年度より18ポイント低下しました。500点以上（年間で優良賞以上に該当）の生産者は公共施設等を含め96戸となり、昨年度より79戸減っています。

生乳品質共励会では規模別の最高得点者と全体の上位30名程度の方々に、最優秀賞・優秀賞として牧場名が刻まれたステンレスプレートや副賞が贈られることになっており、良質な生乳生産管理技術の牧場としての証となります。

生産規模により生産管理ポイントが異なりますが、作業する人が変わっても搾乳マニュアルを遵守し、正しい管理作業が実施されれば、生乳の品質は安定し、乳質評価基準のクリアに繋がります。

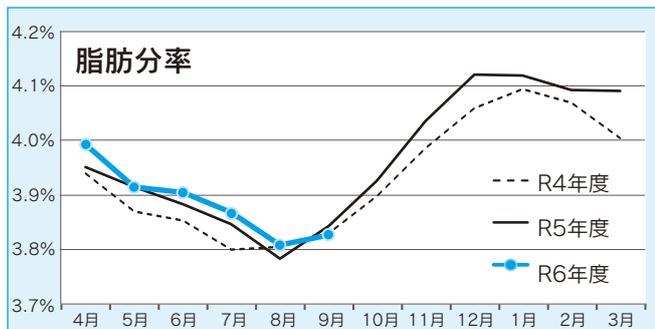
下半期も良質な生乳生産にご協力下さいますようお願いいたします。

令和6年度 県別得点分布（9月現在）

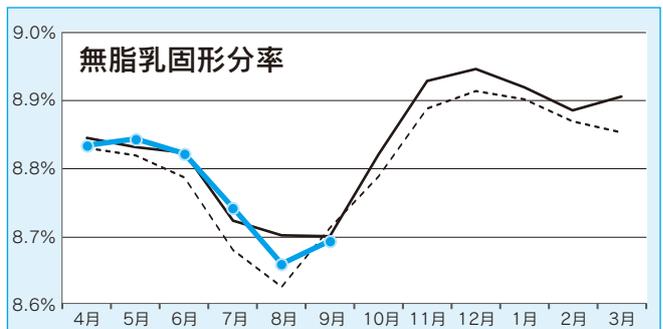
（単位：戸）

得点	累計	分布	分布比率	福岡県	佐賀県	長崎県	熊本県	大分県	宮崎県	鹿児島県
600	0	0	0.0%							
550～599	21	21	2.1%	4		3	9	2	3	
500～549	96	75	7.5%	8		4	43	8	7	5
450～499	292	196	19.7%	26	4	19	93	12	28	14
400～449	544	252	25.3%	35	4	14	109	15	53	22
350～399	759	215	21.6%	34	9	19	73	16	39	25
300～349	876	117	11.7%	16	5	11	37	9	19	20
250～299	947	71	7.1%	8	1	6	18	3	16	19
200～249	976	29	2.9%	6	4	3	2		9	5
200未満	996	20	2.0%	3	1	3	5		3	5
対象酪農家戸数			996	140	28	82	389	65	177	115
平均点			401	398	355	393	421	420	390	364
前年度平均点			419	408	370	410	444	424	403	392

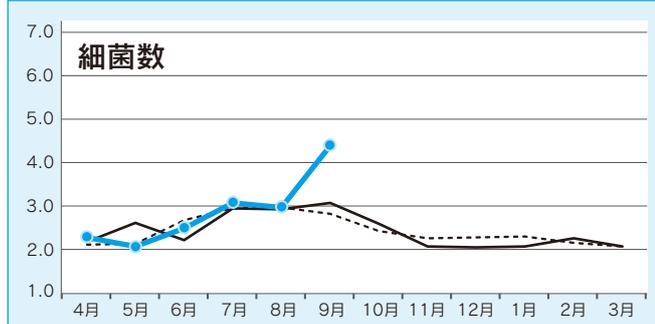
令和6年度 月別受託生乳検査実績



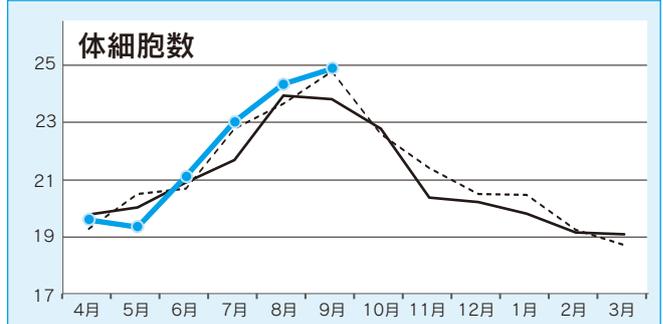
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
R4年度	3.94	3.87	3.85	3.80	3.80	3.83	3.90	3.99	4.06	4.10	4.07	4.01
R5年度	3.95	3.92	3.88	3.85	3.78	3.84	3.93	4.04	4.13	4.12	4.10	4.10
R6年度	4.00	3.92	3.91	3.87	3.81	3.83						



	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
R4年度	8.83	8.82	8.79	8.68	8.62	8.71	8.79	8.89	8.92	8.90	8.87	8.85
R5年度	8.85	8.83	8.82	8.72	8.70	8.70	8.82	8.93	8.95	8.92	8.89	8.91
R6年度	8.83	8.84	8.82	8.74	8.66	8.69						



	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
R4年度	2.1	2.1	2.7	2.9	3.0	2.8	2.4	2.2	2.2	2.3	2.1	2.0
R5年度	2.1	2.6	2.2	2.9	2.9	3.1	2.6	2.0	2.0	2.0	2.2	2.0
R6年度	2.2	2.0	2.5	3.1	2.9	4.4						



	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
R4年度	19.2	20.4	20.6	22.7	23.6	24.7	22.5	21.3	20.4	20.4	19.2	18.6
R5年度	19.7	19.9	20.8	21.6	23.9	23.7	22.7	20.3	20.1	19.7	19.1	19.0
R6年度	19.5	19.3	21.0	23.0	24.3	24.8						

酪農理解醸成・
牛乳消費拡大対策事業

お知らせとご報告

イオン九州とのタイアップキャンペーンのお知らせ（1月上旬～2月上旬）

九州内のイオン及びイオン系列店舗で、キャンペーンの対象となる成分無調整牛乳を購入し、応募していただいた方の中から抽選で豪華賞品が当たるプレゼントキャンペーンを実施します。今回で5回目の実施となりますが、冬季の牛乳消費拡大につなげられるよう取り組みます。



牛乳川柳コンテストのお知らせ（1月上旬～2月上旬）

牛乳・酪農をお題にした川柳のコンテストをX（旧Twitter）にて実施します。投稿された川柳の中から「最優秀賞」「優秀賞」「入賞」を選び、それぞれの賞に応じた賞品をプレゼントします。酪農や牛乳を応援する機運を盛り上げられるよう取り組みます。



＼ 九販連公式ホームページ・SNS アカウントはこちら！ /

- ホームページ <https://kyuhanren.com/>
- Facebook <https://www.facebook.com/kyuhanren/>
- Instagram <https://www.instagram.com/kyusyulovemilkclub/>
- X（旧Twitter） https://twitter.com/love_milk_club



「令和6年度九州ミルク料理コンクール」開催のお知らせ

牛乳・乳製品についてのより正しい知識の普及と牛乳・乳製品料理への動機付け・定着化を図り、牛乳・乳製品の消費拡大に資することを目的に、昨年へ続き第2回目となる牛乳・乳製品を利用した料理コンクールを開催します。コンクールを盛り上げ、牛乳・乳製品の料理への利用拡大につなげられるよう取り組みます。

■募集期間 令和6年10月15日(火)～令和7年1月12日(日)(郵送またはWEB)

■書類審査 令和7年1月14日(火)～1月24日(金)

■実技審査 ①開催日 令和7年2月24日(月・祝)

②会場 福岡ホテル・ウェディング&製菓調理専門学校(福岡市博多区)

③審査員(予定)

- ・ 本会代表者
- ・ 濱中健一(福岡ホテル・ウェディング&製菓調理専門学校副校長、前ホテルオークラJRハウステンボス製菓長等)
- ・ 窪津朋生(レストランテ Kubotsu 料理長)
- ・ 山際千津恵(料理研究家)



いまや牛乳・乳製品は家庭の料理にとつてなくてはならない素材になりました。完全栄養食である牛乳・乳製品を活かしたオリジナリティのある「とっておきのミルク料理」をお寄せください。



募集期間

令和6年10月15日(火)から
令和7年1月12日(日)まで



参加資格

九州内に住む、現職の調理師を除く高校生以上の方(男女問わず)。
※未発表かつオリジナルの作品に限る。※1人何点でも応募可能。



選考方法

(1)書類審査

応募のあった作品の中から書類選考の上、部門ごとに県代表を7名ずつ計14名選出する。

(2)実技審査

(1)で選出された2部門計14名の方と、九州生乳販売委員会からの推薦を受けた方の実演による九州大会を開催する。



応募方法

応募用紙の郵送もしくはWEBの応募フォーム(用紙は本チラシ裏面、フォームは下記QRコードより)



審査

●締切/令和7年1月12日(日)必着 ●実技審査開催日/令和7年2月24日(月・祝) ●会場/福岡ホテル・ウェディング&製菓調理専門学校(福岡県福岡市博多区石城町20-9)



賞金

(ごはん・おかず部門/デザート部門それぞれ)

2位 **30,000円**
1位 **50,000円**
3位 **10,000円**

詳しくはこちら



「KYUSHU RUGBY × MILK」 実施中！

スポーツを絡めた牛乳消費拡大施策として、今年度は九州ラグビーフットボール協会とタイアップし、「KYUSHU RUGBY × MILK」を実施中です。九州内のラグビー大会での牛乳のサンプリングやイベントの開催、SNS 投稿キャンペーン等を実施しています。



タイアップ① ラグビー大会で牛乳の無償配布

下記の対象試合で LL 牛乳のサンプリングを実施しています。

県	日時	大会名	対象
大分	8月2、3日	①新島旗九州中学校ラグビー大会 ②新島杯 九州ジュニアラグビー大会 ③九州女子中学生ラグビー大会	中学生
熊本	10月13日	ジュニアラグビー九州ブロック大会	中学生
長崎	10月27日	ブルーライオンズ杯	小学生
宮崎	11月23日	トライドリームカップ	小学生
熊本	12月15日	南九州ブロックミニラグビー大会	小学生
佐賀	1月19日	第21回 全国小学生タグラグビー大会 九州ブロック予選大会	小学生
福岡	1月25、26日	九州ジュニアラグビー福岡ジャンボリー	中学生
鹿児島	2月22、23日	九州ジュニアラグビー鹿児島ジャンボリー	中学生



タイアップ② RUGBY × MILK スペシャルイベントの実施

9月23日、ラグビー日本代表の強化拠点である JAPAN BASE にてキューデンヴォルテクス所属の山田章仁選手による子供たちへのラグビートレーニング、栄養士による保護者への栄養講習、栄養士考案の牛乳を使ったメニューのランチ試食を行いました。



タイアップ③ リーグワン観戦チケットプレゼントキャンペーンの実施

今後、X (旧 Twitter) でリーグワン観戦チケットが当たるキャンペーンを実施する予定です。

新聞広告を掲載しました

check!



あなたが、
コップ一杯の牛乳を飲んでくれるなら。
わたしたちは、国際的な原油高や円安、
飼料代的大幅な高騰にも負けず、
がんばって、がんばって、
牛乳をつくり続けることができます。
あなたが、いつもより
「もう一杯」牛乳を飲んでくれるなら。
わたしたちは
酪農家であることに誇りをもち、
仲間たちや子供たちと一緒に
この仕事をつづける勇気があります。
牛乳に、明けない夜はない。
「あのときは大変だったね」と
笑顔で話せるその日まで。
九州生まれのおいしい牛乳を
飲んで応援してください。
あなたの一杯は、
わたしたちが前へ進む一歩です。

牛乳に、
きつと朝はくる。



令和5年度
生乳品質共励会3部最優秀賞

熊本県菊池市 右田牧場

30歳のときにサラリーマンを辞め、家業の牧場を継いだ右田祐樹さんと妻の志穂さん。ゲノム検査を取り入れて牛の改良を行ったり、様々な勉強会にも積極的に参加することで現状の打破に取り組んでいます。「牛乳は子牛を元気に育てる大事なモノ。牛乳にプラスの“気”を入れて送り出しています」。酪農への前向きな思いが、熊本の地で輝きます。

今こそ、飲んで守りたい、牛乳の未来。



九州生乳販売農業協同組合連合会 九州 Love Milk Club

ふくおか県酪農協 佐賀県農協 長崎県酪連 熊本県酪連 大分県酪農協 宮崎県経済連 鹿児島県酪農協

生乳生産者需要確保事業 (協) 農畜産業振興機構 (一社) 中央酪農会議 後援

◆8月17日(土)掲載 令和5年度生乳品質共励会3部最優秀賞：熊本県菊池市 右田牧場さん

『牛乳に、きっと朝はくる。』

牛乳に、 きつと 朝はくる。

あなたが、

コップ一杯の牛乳を飲んでくれるなら、

わたしたちは、国際的な原油高や円安、

飼料代的大幅な高騰にも負けず、

がんばって、がんばって、

牛乳をつくり続けることができます。

あなたが、いつもより

「もう一杯」牛乳を飲んでくれるなら、

わたしたちは

酪農家であることに誇りをもち、

仲間たちや子供たちと一緒に

この仕事をつづける勇気もてます。

牛乳に、明けない夜はない。

「あのときは大変だったね」と

笑顔で話せるその日まで。

九州生まれのおいしい牛乳を

飲んで応援してください。

あなたの一杯は、

わたしたちが前へ進む一歩です。



令和5年度
生乳品質共励会2部最優秀賞

長崎県諫早市 山口牧場

「待っていても良くはない、自分で動かないとダメ」。酪農を取り巻く厳しい現状に対してそう語るのは、3年連続で最優秀賞に輝く山口大貴さんと妻のいずみさん。消費者へのメッセージは、「物価高騰の中、変わらず牛乳を飲んでいただいております」。この夏、お子様誕生し、明るいニュースに笑顔を咲かせる山口牧場です。

今こそ、飲んで守りたい、牛乳の未来。



九州生乳販売農業協同組合連合会 九州 Love Milk Club

ふくおか県酪農協 佐賀県農協 長崎県酪連 熊本県酪連 大分県酪農協 宮崎県経済連 鹿児島県酪農協

生乳生産者需要確保事業 (独)農畜産業振興機構 (一社)中央酪農会議 後援

◆9月21日(土)掲載 令和5年度生乳品質共励会2部最優秀賞：長崎県諫早市 山口牧場さん

新聞を使った酪農理解醸成活動として、新聞の購読者である「あなた」に対し、「あなた」が牛乳を飲んでくれることが飼料高騰にも負けず酪農を続けることができること、だからこそ牛乳を飲んで応援して欲しいという思いを発信する新聞広告を掲出しました。



牛乳に、 きつと 朝はくる。

あなたが、
コップ一杯の牛乳を飲んでくれるなら。
わたしたちは、国際的な原油高や円安、
飼料代的大幅な高騰にも負けず、
がんばって、がんばって、
牛乳をつくり続けることができます。
あなたが、いつもより
「もう一杯」牛乳を飲んでくれるなら。
わたしたちは
酪農家であることに誇りをもち、
仲間たちや子供たちと一緒
この仕事をつづける勇気があります。
牛乳に、明けない夜はない。
「あのときは大変だったね」と
笑顔で話せるその日まで。
九州生まれのおいしい牛乳を
飲んで応援してください。
あなたの一杯は、
わたしたちが前へ進む一歩です。


 令和5年度
 生乳品質共励会1部最優秀賞
宮崎県小林市 黒木牧場
 黒木牧場の若き後継者である黒木世成さん。家業である酪農を継ぐために、北海道の専門学校に2年間通い、現地の牧場で修行を経て黒木牧場に帰ってきました。学生の頃は、起床後に1杯の牛乳を飲んでから仕事をしていたとのこと。消費者へのメッセージは、「牛乳はやる気スイッチ。毎朝一杯の牛乳からはじめてほしいですね」。

今こそ、飲んで守りたい、牛乳の未来。



九州生乳販売農業協同組合連合会 九州 Love Milk Club

ふくおか県酪農協 佐賀県農協 長崎県酪連 熊本県酪連 大分県酪農協 宮崎県経済連 鹿児島県酪農協

生乳生産者需要確保事業 (株)農畜産業振興機構 (一社)中央酪農会議 後援

◆9月21日(土)掲載 令和5年度生乳品質共励会1部最優秀賞:宮崎県小林市 黒木牧場さん

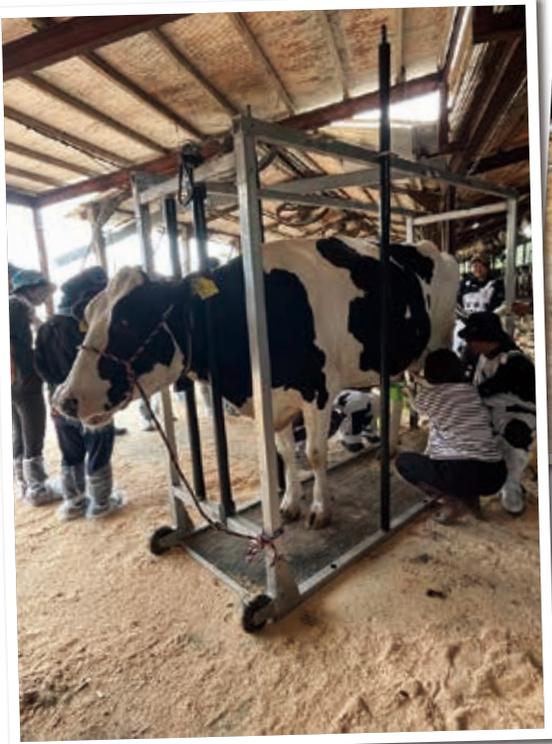
酪農教育ファーム活動について

酪農教育ファーム教師のための酪農体験学習会及び現地会議を開催しました！

8月9日（金）、大分県杵築市のたばた牧場にて教師のための酪農体験学習会及び現地会議を開催しました。参加者は牧場周辺の小・中学校の教師、大分県栄養士研究会、酪農関係者などを含め総勢 39 名に上りました。

体験では、牧場にて酪農の話、搾乳、哺乳、公民館へ移動してバター作り、アイス作りを行いました。現地会議では教師、栄養士、酪農家が酪農の現状や、酪農という仕事、体験の感想、生き物のいのちについて意見交換を行いました。また、昨年度に引き続き乳業者を講師に招き、牛乳が消費者に届くまでの講演をしていただきました。酪農という産業について知り、酪農教育ファームの教育的価値について訴求する良い機会となりました。当日の体験や会議の様子を視聴できるように YouTube にアーカイブ動画を残す取り組みも行っています。

今回の体験後のアンケートでは、「体験を通して食べ物、いのちを大切にする力、仕事に向き合う姿勢を育てることができる」「今後の五感を使つての教育活動に生かしたい」「若い教員にも体験に参加してもらったら良いと思う」などの言葉をいただき、参加者にとって酪農教育ファームの魅力を知ってもらう貴重な時間となりました。



酪農教育ファームスキルアップ研修会が開催されました！

酪農教育ファーム活動の基本である「安全・衛生・防疫対策」について再確認するとともに、ワークショップを通じて、ファシリテーションスキルの向上を目的としたスキルアップ研修会が7月～11月に開催されました。

この研修会は酪農教育ファームファシリテーターを対象としており、受講することで認証更新の要件を満たすことができます。

今回、千葉県農業共済組合北部家畜診療所 山村文之介主査より、「酪農教育ファーム活動における安全・衛生・防疫対策」についての講演がありました。また、参加者の主体性を重視したワークショップも行われました。酪農の仕事体験して教えるだけでなく、相手の考えを引き出すことがファシリテーターの本質であり酪農教育ファームであることを学び、ファシリテーションスキルの向上につながる良い機会となりました。



酪農教育ファーム実践研究集会が開催されました！

10月27日（日）に酪農教育ファーム実践研究集会が開催されました。（一社）中央酪農会議と教育関係者で構成される日本酪農教育ファーム研究会の主催で、年に1度開催されているものです。昨年に引き続きオンラインでの開催となり、約50名の教育関係者と酪農関係者による活発な意見交換が行われました。

実践発表では、小学校・中学校・高校での酪農体験学習の取組、教員を目指す大学生を対象としたオンライン酪農体験に関する発表があり、各地域で行われている酪農体験の様々なやり方について知ることができました。また、九州で作成した教材「酪農マスター BOOK・酪農すごろく」の遊び方について紹介されました。

基調講演では(有)環境テクシスの高橋氏を講師に迎え、「食品リサイクルによる持続可能な酪農～エコフィードの取組」に関する講演がありました。

グループ討議では、エコフィードに関する講演を聞いた感想や気づきを共有し、食品リサイクルによる持続可能な酪農を酪農教育ファームにどのように取り入れていくかを考える貴重な時間となりました。

